

法 学 一 般

佐伯宣親・高乗正臣・奥村文男編著

プラクティス法学実践教室Ⅰ

《法学・民法・刑法編》〔第5版〕

A5判並製382頁／2400円

「法学検定試験4級」合格のための学習教材を兼ねた標準的な「法学・民法・刑法」の教科書。検定試験の項目に準拠し、初学者のためにできる限り平易・簡潔に解説した。学習要点をキーワード、キーポイントとして示し、理解度を確認するために演習問題と解答・解説を、さらに巻末に法律用語の基礎知識を掲載した〔0574-1・15〕

高乗正臣・奥村文男編著

プラクティス法学実践教室Ⅱ

《憲法編》〔第4版〕

A5判並製296頁／1900円

「法学検定試験4級」合格からさらに3級を目指す学生・社会人のための学習教材を兼ねた標準的な「憲法」の教科書。扱う項目は検定試験の項目に準拠し、初学者のためにできる限り平易・簡潔に解説した。学習の要点をキーワード、キーポイントとして示し、理解度を確認するために演習問題と解答・解説を掲載した。〔0610-6・17〕

大谷實編著

エッセンシャル法学〔第7版〕

A5判並製348頁／2900円

一般市民が、各自の生活を豊かにし、社会の発展に寄与するために本当に必要な知識は何かという観点に立って叙述した、法学入門書の決定版。判例を数多く取り入れ、生きた法律を学ぶことができる。最新の知識を提供するために大幅な改訂を実施した。〔0640-3・19〕

田中淳子・大野正博編

法 学 入 門〔第2版〕

はじめて学ぶ法学

B5判並製170頁／1800円

実社会において関わる法律に焦点をあて、法律学の役割と必要性を実感できるように、身近で具体的な法律問題をピックアップし説明する。「学生が、自分で勉強できる教科書」の決定版。〔0689-2・21〕

武藤眞朗・多田英明・宮木康博著

法を学ぶパートナー〔第4版〕

46判並製274頁／1800円

法学の学習に求められる技術を集約した新しいタイプのテキスト。法令・判例の読み方、検索の方法、答案・レポートの書き方、裁判の流れなど、「法学の基礎」が身につくよう工夫がされている。高度な学習に入ってからでも、本書を「パートナー」として携えていただきたい。〔0674-8・20〕

奥田進一ほか編著

法 学 入 門

A5判並製160頁／1500円

法学という学問分野をわかりやすくイメージさせ、「法を学ぶと何ができるのか」という側面から法学の全体像が把握できるようにコラム等を用いて工夫した、法を学ぶためのガイドブック。〔0625-0・18〕

堅田研一編

法 学 入 門

A5判並製172頁／1800円

憲法、民法、刑法、訴訟法などの実定法(学)が前提としている原理・原則、そしてそれらを基に構成されている法制度全体の構造をわかりやすく、かつ正確に説明した入門書。〔0713-4・23〕

高乗正臣著

保育者のための法学・憲法入門

B5判並製156頁／1800円

〔0657-1・20〕

保育者を目指す学生たちの意見を取り入れ作り上げた法学・憲法学の入門書。各所に図版を取り入れ、難解な法律用語には振り仮名を振った。巻末では、保育現場で起きた事件の判例を紹介。

城祐一郎著

医療関係者のための実践的法学入門

〔第2版〕

A5判並製470頁／3200円

〔0703-5・22〕

実際に裁判になった実例を紹介しつつ、医療研究者・医療従事者にとって最低限必要と思われる法学上の知識を提供し、自らの思考において深化させられるような問題提起を試みる入門書。

竹下賢・福井康太編著

はじめての法学

B5判並製240頁／2100円

〔0388-5・05〕

大学で法学を学ぼうとしている人や、法学上の重要なテーマについてあらためてよく考えてみたい人を対象とした教科書。トピックごとに事例式の課題を設け、具体的に考えながら、いつの間にか法の基礎にある重要問題について考えることができるように工夫。関連ホームページや参考文献の掲載も充実。

齊藤信宰編著

現代社会における法学入門

〔第3版〕

A5判並製330頁／2600円

〔0555-0・13〕

多くの基本的な判例をとりあげ、また現代社会のさまざまな問題に対処するために社会保障、福祉、少年犯罪などのテーマも取り入れ、平易な表現を使用した法学入門書。第3版では、あらたな執筆者を加え、最新の法改正に対応させた。

トピックからはじめる法学編集委員会編

トピックからはじめる法学

A5判並製356頁／2500円

〔0493-5・10〕

学び手にとって可能なかぎり身近な話題（トピック）をアカデミックに提供することで法学へアプローチする。学部を模索している受験生や、法学部への入学決定者などの事前教育に最適であると同時に、法学部1・2年生や、法に興味のある社会人などの学習、テーマ選びにも役立つ内容となっている。

三原憲三編著

市民のための法学入門 〔第2版〕

A5判並製344頁／2800円

〔0423-2・08〕

人あるところには、必ずそれを規律する法というものが存在する。本書は、市民として必要不可欠な法というものを、わかりやすく解きほぐした法学概説書である。法の一般理論に始まり、実定法について通説の立場から簡明に叙述し、判例も、最近のものを数多く採り入れている。

石渡哲・渡井理佳子著

シュタットプラン法学

A5判上製252頁／2500円

〔0391-5・05〕

憲法、民法（財産法、家族法）および刑法の基礎的問題を説明して、読者（学習者）を法学の世界に誘う。法学という魅力にあふれる街の案内図（シュタットプラン）である。だれもが関心をもつような判例が取り上げられており、また、解説もわかりやすい。法学の教科書としても好適である。

鈴木敬夫・千葉卓・城下裕二・山口康夫・渡辺利治・吉川日出男・落合福司・久々湊晴夫・宇田一明・小川賢一著

やさしい法学 〔第3版〕

A5判上製312頁／2700円

〔0328-1・01〕

大学等の「法学」のテキスト。法哲学・憲法・刑法・民法・企業法・労働法など、法の全般について、分かりやすく説明。〈主な内容〉法とは何か／国家と国民／犯罪と刑罰／財産と契約／土地と建物／損害と賠償／家族と福祉／相続と遺言／企業と経営／労働と職場。

小林忠正著

ステップアップ法学〔第2版〕

A5判上製412頁／3500円

〔0484-3・10〕

法律学研究の第一歩である法学・憲法の全体に通ずる基礎的知識を、著者の学問的態度を失うことなく、平易に解説。できるだけすべての問題について歴史的な視点から考察している。第1部法学／第2部憲法。

利光三津夫・林弘正著

法学〔追補第2版〕

法制史家のみた

A5判上製366頁／3200円

法制史と判例研究により日本人の法意識を解明することを目的とする「法学入門」。例えば、罪刑法定主義について、東洋的なものと、西洋的なものとの根本的差異に言及し、また大岡裁きにより、日本の道理と西洋の条理との基本的相違を明らかにする。従前の多くの法学に新風をふきこむ書といってよい。〔0677-9・20〕

三枝有・鈴木晃著

セットアップ法学〔第3版〕

A5判並製290頁／2500円

〔0401-6・06〕

本書は法学入門書ではあるが、現実社会において機能する典型的法といえる憲法、民法、刑法の主要3法の概説ならびに重要論点にポイントを置きながら記述したものである。民法の「成年後見制度」に関する改正など、重要な法改正や学説・判例の変化に応じて改訂を加えた。

中山政義ほか著

法学〔改訂版〕

法の世界に学ぶ

A5判並製212頁／2000円

〔0719-6・23〕

法の基礎理論の説明から始まり、憲法、民法、刑法など主要な法からより具体的で身近な法へと向かう構成でわかりやすさに重点を置く。法律をこれから学ぶ学生のための入門書。

長谷川日出世著

法の基礎概念と憲法〔第2版〕

A5判並製250頁／2500円

〔0531-4・12〕

「法学・憲法」の名称でおこなわれている教養科目のテキストとして書かれたもの。「法の基礎概念」と「憲法」の二編から構成され、法概念の検討に重きが置かれると同時に、社会における法の在り方にも注意がはらわれている。また憲法についても、片寄のない形でコンパクトに纏められている。

長谷川日出世・土屋茂・中山政義著

やさしい法の学び方

A5判並製206頁／2000円

〔0417-1・07〕

教養科目としての法学講義をどのように進めていくか、学生に法に関する基本的知識を身に付けてもらうにはどうすればよいか、専門分野でより具体的な法律問題をとりあげ、学生が社会で生じているさまざまな法律をめぐる紛争について学べるスキルの基になる最適の教科書。

上野幸彦・古屋等著

国家と社会の基本法〔第5版〕

A5判並製316頁／2500円

〔0722-6・23〕

本書は、あらゆる人の生活とその人生に接着する基本的な法の世界を描写するものである。国家の基本法としての憲法をはじめ、市民社会の基本法たる民法を中心に、紛争解決と権利実現に必須の裁判制度について、分り易く説明されている。具体的に日本の法律を学ぶガイドの役割を果たす法学のテキスト。

愛知学院大学法学部同窓会編

身近な法律問題Q & A

A5判並製110頁／1000円

〔9262-8・17〕

難解な法律をもっと身近に感じてもらうための法律相談30回余りの結果を分析し、相談が多かった問題点を厳選、解説を加え、法的アドバイスを記す。本書を手にとり、法的な悩みの解消はもちろん、将来の紛争に巻き込まれないための予防策としていただきたい。

宿谷晃弘編著

人権Q&Aシリーズ1

学 校 と 人 権

A5判並製158頁／800円

〔0521-5・11〕

人権について、できるだけ身近なテーマをひとつひとつ取り上げつつ、幅広い読者に、人権に関する基礎的な知識と問題意識を示す新シリーズの第1弾。

宿谷晃弘・宇田川光弘・河合正雄編著

人権Q&Aシリーズ2

ケ ア と 人 権

A5判並製192頁／1400円

〔0558-1・13〕

支え合って生きてゆく人々の暮らしの中で欠かすことのできないケア。ケアのもつ大切さだけでなく問題点についても、人権の観点からQ&A方式で平易に記述する。災害援助や国際活動をも視野に入れた注目の書。

横藤田誠編著

広島大学公開講座

裁判所は「権利の砦」たりうるか

46判並製294頁／2600円

〔0519-2・11〕

「権利の砦」としての裁判所はその役割を果たしているだろうか。本書は、司法制度改革の経緯を確認し、裁判の意味と機能について歴史的・比較法的な概観を行った後、憲法訴訟、行政関係訴訟、消費者関係訴訟、裁判員制度、医療訴訟に関する注目すべきトピックを具体例をふまえて解説する。

横山信二ほか著

広島大学公開講座

政治、社会の変化に法はいかにして対応しているか

46判並製224頁／2200円

〔0614-4・17〕

政治の変化、親族法に関わる民法の規定の合憲性、社会的弱者をめぐる変化、国の税収といったテーマと「社会を統治する」ことに関わる基本法である公法の基本原理との関係を検討する。

近江幸治著

学術論文の作法〔第3版〕

論文の構成・文章の書き方・研究倫理

46判並製284頁／2500円

〔2776-7・22〕

論文執筆の手引書。論文、リサーチペーパー、答案などの文章表現の技術と研究倫理、学生が最も必要としている勉学上のノウハウを1冊に集約。

近江幸治・弘中惇一郎編著

学生のための法律ハンドブック

弁護士は君たちの生活を見守っている！

46判並製298頁／1800円

〔0631-1・18〕

大学に入学したらこの1冊。有意義な学生生活を送るために、弁護士法人早稲田リーガル・クリニックと弁護士法人法律事務所ヒロナカが学生に贈る法律の啓蒙書。

法 哲 学

亀本洋著
法学叢書8

法 哲 学

A 5 判上製642頁／4500円

判例と古典を読者とともに読み解きながら、法と国家の役割、法的思考、法と経済学、分配の正義について考える。宮沢俊義、利息制限法判例、人権宣言、アリストテレス、ロック、ヒューム、アダム・スミス、ミル、メンガー、シュンペーター、ハイエク、ロールズ、ノージック、D・ミラー等を素材に検討する。〔0515-4・11〕

酒匂一郎著

法 哲 学 講 義

A 5 判上製494頁／5000円

〔0648-9・19〕

法哲学が一般的に取り扱う「法概念」「法と正義」「法的思考」という三つの大きな問題群に加え、最新のテーマも盛り込み解説する。法学部、法科大学院における法哲学講義に最適の教科書。

河見誠著

新版 現代社会と法原理

共生社会の自由、生命、福祉、平等、平和を求めて

A 5 判上製390頁／3400円

〔0653-3・19〕

現代社会における諸問題解決のための「法原理」及び自らの生き方を創り上げていく「人間関係の原理」の検討をコンセプトとして、「共生とケア」を共通の視座と姿勢に据えて考察を加える。

西村清貴著

法 思 想 史 入 門

A 5 判並製196頁／2000円

〔0673-1・20〕

「人間はいかに生きるべきか」、「人間にとって正しい生き方とは何か」という哲学の問いと、法はどのように関わるのか。このような観点から法思想史を概観する。初学者に最適な入門書。

ホセ・ヨンバルト著

法 哲 学 案 内

A 5 判並製312頁／2500円

〔0218-8・93〕

法律家でさえ敬遠しがちな法哲学について、普通の読者を対象として、法と国家に関する基本的な問題を分かり易く、できるだけ面白く紹介する狙いで書かれたもの。東洋の思想と日本の特殊な問題点も考慮し、「生ける法」の哲学としての法哲学へ読者を案内する。

鈴木敬夫著

法 哲 学 の 基 礎

ラートブルッフの法哲学

A 5 判上製194頁／2500円

〔0344-3・02〕

戦後東アジアの民主主義と人権擁護にとって、ラートブルッフ法哲学の果たした役割は甚大である。本書はラートブルッフの法的確信、「相対主義……それは普遍的な寛容である。しかし不寛容に対してまで寛容であることはできない」を法哲学の基礎にすえて、人間の尊厳と国家権力の在り方を考える。

ホセ・ヨンバルト著

成文堂選書49

法 哲 学 で 学 ん だ こ と

一法学者の回顧録

46判並製318頁／2500円

〔0447-8・08〕

「法の哲学で現行法の問題」と「過去の知恵で将来の可能性」を考えるのが、本書の狙いである。

ホセ・ヨンバルト著

社会・仕事・人生

知られていることを考える

4 6 判並製206頁／1800円

人間は社会的動物と働く動物でもある。だがこれだけであれば、動物の群の一匹になるはずである。しかし、人間は自分の人生の唯一の持ち主であり、自分で考えるのは人間の強さである。考えることによるのみ、人間は社会と仕事の奴隷にならないで、自分の生き甲斐も発見することができる。
[0428-7・07]

ホセ・ヨンバルト著

成文堂選書44

正義の感覚・理論・実現

法律は正義を実現しているか

46判上製232頁／2300円

人間の正義感覚は敏感なものであり、何も勉強せずに、すぐ正と不正を示す。しかし人間は理性を有しているから、その感覚は大昔から理論化ないし合理化されることになったが、未だに完全な正義はつくられていない。それでも、法律を通してこの世をよりよいものにすることは可能である。
[0400-8・06]

藤川吉美著

正義の研究 2

ロールズ哲学の全体像

公正な社会の新しい理念

A 5 判上製292頁／2500円

[6055-2・95]

社会の新たなパラダイムの1つとなりつつあるロールズ哲学の全体像を、その哲学的意義、さらには、現代の様々な解釈を参考に検討する。

藤川吉美著

正義の研究 3

社会思想史

価値基準の進化

A 5 判上製268頁／2500円

すべての判断は一定の価値基準を前提している。小著はこの価値基準に光を当て、古代ギリシアから今日までの主な基準の実式化を試みたもの。各時代の考え方のパラダイムがいかにか進化してきたか、その延長として21世紀の価値基準がいかにかあるべきかが示唆されよう。社会の興亡は選ばれた価値基準の関数である。
[6063-3・97]

藤川吉美著

正義の研究 4

政策原論

A 5 判上製216頁／2500円

政策とは舵取りをいうが、正しい舵取りには正しい羅針盤が必要であるように、正しい政策にも正しい羅針盤が不可欠である。それは何か。社会的協力のグローバル化・高度情報化の時代に相応しい羅針盤は何か。本書はその均衡解を求めて哲学的・思考実験的な探求を試みた一試論である。
[6078-1・03]

藤川吉美著

正義の研究 5

合意形成論

A 5 判上製320頁／3000円

本書『合意形成論』は一連の正義の研究1～4を総括し、①ジャングル状態、②力の正義と争奪戦、③猛獣から人間へ、④合意形成への途、⑤合意形成の方法、⑥公正な政策の諸要件、⑦競争から協力へ、⑧世界政府の不可欠性などに検討を加えた労作である。
[6089-4・08]

藤川吉美著

正義の研究 6

世界政府論考

その論理と倫理

A 5 判上製318頁／5000円

[0548-2・13]

ソクラテスの弁証術に学び、人類は英知を結集して後世世代のため自発的・主体的に社会的協力によって現在の困難な状況を抜け出す途を模索すべき義務がある。世界的協力の現状に鑑み「世界政府」の論理と倫理を理解することを説く渾身の書。
[0548-2・13]

宗岡嗣郎著

久留米大学法政叢書10

リーガルマインドの本質と機能

A 5 判上製340頁／5300円

「リーガルマインド」とは何か。このことはこれまで充分に考察されたことはなかった。本書は、民刑事法・国賠法・教育法といった領域から具体的な問題点をとりあげながらリーガルマインドの本質に迫り、法的価値判断においてはたらくリーガルマインドの機能の仕方をあきらかにしたものである。
[1593-X・02]

高橋広次著

南山大学学術叢書

アリストテレスの法思想

その根柢に在るもの

A5判上製434頁／8500円

〔0586-4・16〕

形而上学、倫理学、政治学関連に多くの文献を残すアリストテレスに關し、主なテーマを「知慮」と「正」に選んで、その法思想、立法学を紐解く。

西嶋法友著

久留米大学法政叢書6

ルソーにおける人間と国家

A5判上製228頁／4600円

〔0294-3・99〕

『社会契約論』の体系を法実証主義とする解釈を斥け自然法原理に貫かれていることを論証すると共に、啓蒙期自然法学とも異なる論理枠組みの独自性を照らし出す。ルソー独自の認識論を軸に一般意思説や主権論の分析を試みたルソー研究者必読の書。

西嶋法友著

久留米大学法政叢書20

続・ルソーにおける人間と国家

A5判上製224頁／4000円

〔0684-7・21〕

ルソーを独自の自然法論者とする立場からのルソー研究とその成果を踏まえたルソーの善認識論を念頭において、戦後日本憲法学の人権基礎づけを検討する研究書。

中村博雄著

カント批判哲学による「個人の尊重」（日本国憲法13条）と「平和主義」（前文）の形而上学的基礎づけ

A5判上製328／5700円

日本国憲法の基本原理（個人の尊重と平和主義）の哲学的根柢は何か？ これは普遍的原理といえるか？ それは理論においては正しくても実践にとって役に立たないのではないか？ 日本国憲法の基本精神は単なるオプティミズムか、それとも21世紀の希望の光か？ これらの形而上学的問題にカントが答える。〔0452-2・08〕

小林正士著

ヘーゲル『法哲学』と市民法学の原理

A5判上製218頁／4700円

〔0692-2・21〕

ヘーゲルの哲学、思想を「主体性の原理」という観点と、「共同性の原理」という二つの観点から探りつつ考察を行い、「市民法学」の観点から法哲学的に「法の基礎」を探究する研究書。

壺田研一著

法・政治・倫理

デリダ、コジュエヴ、シュトラウスから見えてくる「法哲学」

A5判上製290頁／5700円

「始源＝目的論」の孕む問題とその批判から現れる「歴史の終わり」における人間のあり方という問題系、さらに、これらをめぐるデリダ、シュトラウス、コジュエヴの議論が、グローバリゼーションの原理的なレベルでの解明にとって重要であることを示す。哲学としての法哲学を意識した原理的な問いかけ。〔0469-0・09〕

河見誠著

自然法論の必要性和可能性

新自然法論による客観的実質的価値提示

A5判上製272頁／5700円

20世紀後半に登場したグリゼイ、フィニスらによる新自然法論に関する我国初の本格的な研究。現代法理論の展開の中での新自然法論の位置づけ、新自然法論による価値提示の解明、新自然法論が開く法的世界の可能性と修正すべき点、アキナスから見た客観的実質的価値提示の現代的意義を論じていく。〔0467-6・09〕

吉田脩・石司真由美編

自然法と国際法

ホセ・ヨンバルト教授著作集

A5判上製154頁／4000円

ホセ・ヨンバルト教授は、とりわけ法哲学の分野において研究を積み重ねてこられたが、その中には、国際法史に関する著作も数多く含まれている。本書は、現在では入手困難となったこれらの業績を体系的にまとめあげるとともに、書下ろしの「自然法と国際法」を加え、自然法と国際法との史的かつ論理的な結びつきにつき、新たな法的視座を提起しようとするものである。〔0524-6・11〕

山田秀著

熊本大学法学会叢書13

ヨハネス・メスナーの自然法思想

J・メスナーの巨大な社会倫理学体系を成す『自然法』と『文化倫理学』を踏まえ、伝統的自然法思想の根本特徴とメスナー自然法思想の獨一性を多方面から浮き彫りにする意欲作。

A5判上製378頁／5300円

〔0559-8・14〕

山田秀著

熊本大学法学会叢書16

人間と社会

自然法研究

ヨハネス・メスナーを代表的な主唱者の一人として数える伝統的自然法論の立場から、一般的論題に限らず、家族、教育、東西思想に見られる自然法的顕現形態などについて考察する研究書。

A5判上製492頁／8000円

〔0646-5・19〕

澤登文治著

南山大学学術叢書

フランス人権宣言の精神

フランス人権宣言の基礎となる思想や原理は何か？アメリカ独立宣言やバージニア権利章典を真似たものなのか？この問いに答えるために、フランス人権宣言を起草した1789年国民会議の議事録を丹念に探究し、その議論には「三十人委員会」が作った一つの大きな流れがあったことを突き止める。

A5判上製438頁／6000円

〔0419-5・07〕

出水忠勝著

名城大学法学会選書9

現代北欧の法理論

北欧を代表する法理論としてはウプサラ学派が知られるところであるが、ウプサラ学派は必ずしも北欧に於いて幅広く受け入れられているわけではない。本書は北欧に於ける多様な法理論の動向を踏まえながら、ウプサラ学派が北欧法学に於いて占める位置とその法理論上の特質について論じたものである。

A5判上製224頁／4000円

〔0501-7・10〕

平田勇人著

信義則とその基層にあるもの

本書は、①科研費（重点領域研究）「法律エキスパート」において研究してきた内容（信義則に基づく法的推論、信義則をめぐる背景知識）と、②哲学・心理学・社会学・民事調停・国際契約法・構造的思考との関係で論じられた諸論文、が収められており、それらを通して法解釈の基本的指針の抽出が試みられている。

A5判上製302頁／5500円

〔2502-1・06〕

湯川益英著

契約規範と契約の動機

契約責任の時間的拡張現象は、古来、契約内容から排除されていた契約の動機が、近現代社会における商品の多様化・多機能化と分業社会における市民間の格差を反映して、契約内容へと取り込まれてゆくことの正当化の現れである。本書は、こうした契約責任観に基づき、新たな契約責任の体系を模索する。

A5判上製276頁／6000円

〔2612-8・11〕

岡寄修著

レッセ・フェールとプラグマティズム法学

19世紀アメリカにおける法と社会

19世紀初頭のアダム・スミスの思想を下にレッセ・フェールを唱えつつ、リアリズム法学隆盛以前のアメリカにおける社会と法学の動きを、時代と資本主義社会構造の発展への急速な変化を視野に入れつつ描き出した意欲作。

A5判上製266頁／5300円

〔0551-2・13〕

西村清貴著

近代ドイツの法と国制

ゲルバー・ラーバント・ギールケの国家法人論、議会制論、権利論の考察を手がかりに、それらの指導的理念を明らかにし、よって、19世紀ドイツ国法学の基層を探求しようとするもの。

A5判上製270頁／6000円

〔0617-5・17〕

西村清貴著

ラートブルフ・テーゼ

A5判上製238頁／5200円

20世紀を代表するドイツの法哲学者グスタフ・ラートブルフの法哲学、とりわけ、彼のいわゆる「ラートブルフ・テーゼ」を、19世紀末頃から20世紀前半における法(哲学)という文脈に置くことにより、より正確に理解することを目的とする。

〔0706-6・22〕

徳永賢治著

南島法と多元的法体制

A5判上製336頁／8000円

日本列島も含む太平洋地域の法にはどのような特徴があるのか。国家制定法だけではなく、成文化されていない慣習法という共同法理の「メガネ」を使って多角的に法的世界の一端を見る試み。

〔0609-0・17〕

亀本洋著

新基礎法学叢書1

格 差 原 理

A 5 判上製236頁／3800円

政治的リベラリズムへの転回後もなお、格差原理がロールズ正義論の中核にあることを説く。最も恵まれない人々に最も有利な社会構造を求める格差原理は、格差縮小の要求、互恵性の観念、恵まれた人からの搾取等を含意するのか。これらの問題を徹底的に探求する。

〔0527-7・12〕

伊藤泰著

新基礎法学叢書2

ゲーム理論と法哲学

A 5 判上製280頁／4800円

人びとはどのような状況のもとで新たな憲法上の権利を望むのか。彼らにとって多数決制度とはどのような意味をもつか。法哲学の諸問題をゲーム理論を通じて考えようとする試み。

〔0528-4・12〕

木原淳著

新基礎法学叢書3

境 界 と 自 由

カント理性法論における主権の成立と政治的なるもの

A5判上製236頁／4500円

本書はカントの理性法構想を共和主義の視点から読み直す。「外的な私のもの」に発する個人主義的所有論が、近代的領土国家や主権の優越、パトリオティズムの観念を要請していく構造を解明する。その上で世界市民主義を、共和主義の過剰を緩和する契機として再定位し、フローバル化を見据えた法秩序構想の基礎を提示する。〔0529-1・12〕

高橋文彦著

新基礎法学叢書4

法的思考と論理

A 5 判上製272頁／5000円

法的思考の論理は三段論法ではない!? 実定法学・法実務から距離を置く法哲学者の立場から、論理的・哲学的な諸問題について法論理を対話的な非単調論理として捉え直す注目の書。

〔0550-5・13〕

大塚滋著

新基礎法学叢書5

説き語り 法実証主義

A5判上製282頁／5500円

学的認識の対象は実定法だけであり、自然法は排除されんとする反自然法論・実定法一元論こそが法実証主義の核心だとの立場から、平易な語り口で、ケルゼンなどの古典家の理論を徹底的に解剖する。法実証主義を論じる者の必読書。

〔0563-5・14〕

濱真一郎著

新基礎法学叢書6

法実証主義の現代的展開

A5判254頁／4200円

法実証主義者であるH.L.A.ハートおよびその理論的継承者たちと、法実証主義に批判的なロナルド・ドゥオーキンのあいだの論争を検討することを通じて、「法実証主義の現代的展開」の一端を描き出そうと試みる。

〔0565-9・14〕

亀本洋著

新基礎法学叢書7

ロールズとデザート

現代正義論の一断面

A5判上製268頁／3900円

[0573-4・15]

ロールズに始まる現代正義論を desert という観念で切り取り、現代の自由民主主義社会において、各個人が平等な地位をもつ市民であるとはどのようなことかについて考察する。

西野基継著

新基礎法学叢書8

人間の尊厳と人間の生命

A5判上製322頁／4000円

[0589-5・16]

死への存在としての人間存在の有限性から逆説的に構成される「かけがえのなさ」に、人間の尊厳の哲学的根拠を見出す。人間の尊厳、人間の生命、両者の交錯した諸相を明らかにする研究書。

大塚滋著

新基礎法学叢書9

イエーリングの「転向」

A5判上製246頁／4500円

[0595-6・16]

法実証主義・概念法学が社会を見下した制定法絶対主義と誤解されたことを契機に、ドイツにおける19世紀概念法学、とりわけイエーリングの法学方法論を研究主題とする著者の思考の歩み。

竹下賢著

新基礎法学叢書10

法秩序の効力根拠

A5判上製276頁／3900円

[0596-3・16]

法の時空的妥当という事態が法的現実にとっては本質的である。平和の希求や自由思想を圧倒する事実に見み、法秩序の効力根拠を問うことを通じて法的支配の正当性を究明する法哲学書。

亀本洋著

新基礎法学叢書11

ドゥオーキン「資源の平等」を真剣に読む

A5判上製336頁／4600円

[0601-4・16]

法哲学者の立場から、現代正義論に関心がある人々、とりわけ、ドゥオーキンの正義論を理解するのに苦しんでいる人々に贈る、ドゥオーキンの平等論の解明をめざす苦闘の記録。

大塚滋著

新基礎法学叢書12

憲法改正限界論のイデオロギー性

A5判上製240頁／4500円

[0619-9・17]

法的世界の客観的な構造とそこに置かれている位置を自覚的に把握した上に構築されている純粋法学が、静態理論的視点から粹理論に基づいて行った、わが憲法に関するイデオロギー批判。

濱真一郎著

新基礎法学叢書13

バーリンとロマン主義

A5判上製242頁／4200円

[0618-2・17]

英国の思想史家バーリンのロマン主義研究の概要を整理し、バーリン自由論の基本的特徴を描き出すことを通じて、哲学的研究と思想史的研究が交錯し補完し合っていることを明らかにする。

佐藤遼著

新基礎法学叢書14

法律関係論における権能

A5判上製222頁／4000円

[0623-6・18]

二人格間の法的地位の相関関係としての「法律関係」を記述するために必要な概念、特に「権能」の概念に着目して、学説史と理論的考察の両面から検討した研究書。

土井崇弘著
新基礎法学叢書15

ハイエクの伝統論の再構成

日本文化のなかでの自由社会の擁護

A5判上製278頁／5500円

川島武宜が提起した問題意識を念頭に置き、日本の伝統・文化を考慮しつつ自由社会を支える根本的な観念・制度原理を擁護する提言を探求するためにハイエクの伝統論を再構成する研究書。

[0639-7・19]

堅田研一著
新基礎法学叢書16

コジエーブの法哲学

普遍等質国家における正義

A5判上製300頁／6000円

戦後のフランスの思想界に決定的な影響を与え、近年改めてその思想が注目されているヘーゲル講義で有名なアレクサンドル・コジエーブの著作『法の現象学』に関する一つの読解を提示する。

[0650-2・19]

北村幸也著
新基礎法学叢書17

裁判と法律のあいだ

ドイツ憲法の視角から

A5判上製352頁／6000円

法律に拘束されている（はずの）裁判官の手による《裁判による法形成》を主題として、現代のドイツ法における重要な議論の様相をできるだけ詳細かつ明瞭に描き出すドイツ法研究の成果。

[0658-8・20]

濱真一郎著
新基礎法学叢書18

ハート対ドゥオーキン論争のコンテキスト

A5判上製244頁／5500円

司法的裁量をめぐる H.L.A.ハートとロナルド・ドゥオーキンの論争。20世紀後半の英語圏における法哲学上の最重要の論争を、当時の文脈の中に位置づけた上で、その論争の行方を探る。本書では「ハート対フラー論争」にも再注目する。

[0676-2・20]

重松博之著
新基礎法学叢書19

ヘーゲル承認論と法

A5判上製296頁／5800円

ヘーゲルの最初の法哲学ともいべきイェーナ前期の「自然法論文」と『人倫の体系』さらに、その思想の根底をなすであろう青年期の神学論を起点とするヘーゲル法哲学研究の成果。

[0679-3・21]

菊地諒著
新基礎法学叢書20

「法と経済学」の揺籃

A5判上製274頁／5500円

主に19世紀後半から20世紀前半のアメリカ合衆国を素材として、法学と経済学を統合しようとする試みの承譜を描き出し、思想的な検討を加える研究書。

[0688-5・21]

若松良樹著
新基礎法学叢書21

自由

ミル「自由論」を読む

A5判上製208頁／4000円

自由の価値を論証しようとするならば、醜くても自由には価値があることを示さなくてはならない。この主張の論証へ向けて、本書は、ジョン・ステュアート・ミルの『自由論』を伴走者として走り出す。

[0695-3・21]

伊藤泰著
新基礎法学叢書22

憲法上の権利の政治経済学

A5判上製280頁／5600円

日本国憲法上の権利に関わる諸問題について、憲法上の基本的権利の論理の中に潜む経済学的な側面に、多様な論理の集合体である経済学の枠組みからの分析を行おうと試みる論文集。

[0698-4・22]

ニール・マコーミック著・亀本洋他訳

本書は、実際の裁判の複雑なあり方を適切な判例を引用しながら、よい判決を書くためにはどうすればよいのかを探求する。法的思考理論の大家マコーミック教授の渾身の力作である。

判決理由の法理論

A 5 判上製366頁／3800円

(0468-3・09)

原秀男・ホセヨンパルト・三島淑臣編

《主な内容》ホップスにおける法と国家(一)／水波朗 老子とアナキズム／長尾竜一 純粹法学の根拠への帰回(二)／高橋広次 法社会学との関係における法哲学／田中茂樹 権利は科学的概念か(千葉正士教授に対する二、三の疑問)／佐藤節子 佐藤節子・田中茂樹両教授の批評によせて／千葉正士ほか

法の理論 2

A 5 判上製290頁／2800円

(0040-1・82)

原秀男・ホセヨンパルト・三島淑臣編

《主な内容》法的に空虚な領域の理論／金沢文雄 ホップスにおける法と国家(三)水波朗 ソクラテスの死／森際康友 現代日本の法哲学教科書／葛生栄二郎 ヴォルフ・パウルの批判的法理論について／酒匂一郎 法的に自由な領域の理論再批判／山中敬一 純粹法学の構造／大塚滋 ほか

法の理論 3

A 5 判上製280頁／2800円

(0041-X・83)

原秀男・ホセヨンパルト・三島淑臣編

《主な内容》「法哲学」と「法理学」／八木鉄男 「批判的峻別論」偶感／菅野喜八郎、正義と平和／平野敏彦 国際政治学から見た日本国憲法第九条／五味俊樹 憲法第九条の変遷の問題／ホセヨンパルト なぜ、今自然法論を／阿南成一 社会主義法制下における法および道徳と社会共同生活の原則／他

法の理論 4

A 5 判上製228頁／3000円

(0042-8・84)

ホセヨンパルト・三島淑臣編

《主な内容》原秀男教授の人と思想／鈴木敬夫 アイデンティティ法原理／千葉正士 国家の使命・可能性・限界／山田秀訳 N. ルマーンのシステム理論と正義問題／駒城鎮一 木村亀二の死刑違憲論について／初宿正典 現代の概念法学／大塚滋 我国における法律行為概念の成立に関する理念的考察／新井誠他

法の理論 5

—原秀男博士追悼論集—

A 5 判並製288頁／3000円

(0043-6・85)

ホセヨンパルト・三島淑臣編

《主な内容》イマヌエル・カントと抵抗権のパラダイム転換／福井徹也 訳 「平等者として扱われることへの権利」について／小谷野勝巳 権利概念に関する一考察 小林公 ヨーロッパ人権条約における信教の自由／アントニ・コシチ 曖昧な法概念のアナトミア／増田豊 レトリックによる合意形成・序説／小畑他

法の理論 7

A 5 判並製294頁／3000円

(0045-2・86)

ホセヨンパルト・三島淑臣編

《主な内容》合理性問題の一考察／岩倉正博 脱工業化社会における正統性の危機／櫻沢秀木 行為責任・性格責任・人格形成責任／森村進 東洋法思想史の課題と方法／鈴木敬夫訳 ルター自然法論の形成と論理／伊藤平八郎 競走と秩序／桂木隆夫 脳幹死説への疑問／金沢文雄ほか。

法の理論 8

A 5 判並製258頁／3000円

(0134-3・87)

ホセヨンパルト・三島淑臣編

《主な内容》自然法の継承としての法実証主義佐藤節子／自然法の再討議 ヴァージニア・ブラック(訳) 酒匂一郎 神原和宏／ハード・ケース処理に関する裁判官の役割 松平光央／中国における社会主義の現代化と法沈宗靈(訳) 中村浩爾ほか

法の理論 9

A 5 判並製302頁／3000円

(0147-5・88)

ホセヨナルト・三島淑臣編	《主な内容》寛容について／解釈という賢慮の仕事／ホップズによるコークの Artificial Reason 批判について／介入主義法の限界とその手続化／法の実定性と禁止の錯誤／〔反論と意見〕行為責任論再説／「自然法論の継承としての法実証主義」／ヨナルト教授の批判に答えて／水波朗著『トマス主義の法哲学』。(0175-0・90)
法 の 理 論 10	A 5 判並製292頁／3689円
ホセヨナルト・三島淑臣編	《主な内容》文化的に制約された行動秩序の解体と変貌／法は当為か存在か／ポスト・モダンとニヒリズム／国家の自由裁量と刑罰権の理解／現代中国法哲学の課題／〔反論と意見〕反省・主体・権利／意識下の新カント派観念論
法 の 理 論 11	A 5 判並製302頁／3689円 (0190-4・91)
ホセヨナルト・三島淑臣編	《主な内容》死刑廃止への提言／条理もしくは道理について／法規範の超越論的妥当根拠／自然法論の歴史と法学上の自然法の歴史性／「実定法学」と「哲学」との間／初期ヘーゲルにおける近代自然法学の批判と再構成／ジョン・フィニス自然法論の基本構造／〔反論と意見〕桂木隆夫『自由社会の法哲学』ほか (0210-2・92)
法 の 理 論 12	A 5 判並製242頁／3689円
ホセヨナルト・三島淑臣編	《主な内容》いま話題のコンセンサスについて／エホバの証人の輸血拒否とバターンナリズム／「立憲政体の冷熱」／コーポレーションとしてみたイングランド国教会の諸相：近代国家論の背景／〔反論と意見〕「書かれた自然法」という考え方／社会哲学の立場ほか
法 の 理 論 13	A 5 判並製260頁／3689円 (0222-6・93)
ホセヨナルト・三島淑臣編	《主な内容》文化的進化の産物としての法／違法判断の実践性と法的価値発見／初期ヘーゲルにおける近代自然法学の批判と再構成／荀子／〔反論と意見〕『今話題のコンセンサスについて』を読んで／合意についての合意について／合意が得られると、どうなるか／ファンタスマ理論と法的比喩論／ほか (0227-7・94)
法 の 理 論 14	A 5 判並製236頁／3689円
ホセヨナルト・三島淑臣編	《主な内容》西欧的憲法理解に対する南側のオルターナティヴをめぐる／法の主体的意義／環境破壊の意識構造／法に従うことは道徳的義務か／ローマ法学史上の二学派をめぐる／〔反論と意見〕死刑のパラドックス／道徳の伝統と変化／良心の自由はどれほど法的に保障され得るかほか (0243-9・95)
法 の 理 論 15	A 5 判並製260頁／4000円
ホセ・ヨナルト・三島淑臣・笹倉秀夫編	人間社会、法律と法哲学に関する次の基本問題は課題又は議論される。社会システム理論の長所と短所。リベリズムと正義・平等。論理的な自然法としての黄金律。良心の自由とその法的保障。生命倫理と法律。法哲学研究と大学における法哲学教育。法哲学について国内国外の22人実定法学者の意見も紹介される。(0259-5・97)
法 の 理 論 16	A 5 判並製292頁／4000円
ホセ・ヨナルト・三島淑臣・笹倉秀夫編	《主な内容》「補完性原理」のトマス主義社会倫理学的考察(宮川俊行)／ポストモダニズムと正義論(長谷川晃)／自己決定権の限界(秋葉悦子)／日本から見た世界の現代法哲学・法理論の分裂とその原因(ホセヨナルト)ほか。
法 の 理 論 17	A 5 判並製250頁／4000円 (0273-0・97)

ホセヨナルト・三島淑臣・笹倉秀夫編	法哲学事始め—西周・加藤弘之・穂積陳重の思想史として 堅田剛/法実証主義における規範性・道徳・法的責務—英国と欧大陸の法思想についての比較法的—考察 ジョージ・ムスラキス(山崎康仕訳)/法解釈の客観性とポスト・モダン 駒城鎮一/憲法八九条後段と「協働」社会 青柳幸一/ほか	18	A5判並製318頁/4200円	(0293-5・99)
ホセヨナルト・三島淑臣・笹倉秀夫編	生命倫理における基礎論の再考(その二) ホアンマシア/胎児は憲法上の権利を持つのか 中山茂樹/ドイツ人工妊娠中絶法における胎児条項をめぐる問題 松尾智子/再び、「個人の尊重」と「人間の尊厳」は同じか ホセヨナルト/現代刑事法の論理構造 刑法理論史研究会/ほか	19	A5判並製258頁/4200円	(0310-9・00)
ホセヨナルト・三島淑臣・笹倉秀夫編	価値と法規範 ロドリゲス・パンシアアグア/人間の尊厳と基本的人権(二) 水波朗/ハンナ・アレントにおける「疎外」論の構造 伊藤洋典/ドゥウォーキンの法概念論の批判 森村進/人格的自律権の哲学的考察 中村博雄/事実からのみ当為は導出される 坂本百大/伝統知としての自然法 葛生栄二郎/ほか	20	A5判並製228頁/4000円	(0325-7・00)
ホセヨナルト・三島淑臣・笹倉秀夫編	グスタフ・ラートブルフ『法哲学』後書き草稿 陶久利彦・足立英彦訳/ジョージ・ローソンの「憲法」概念 山本陽一/新自然法論と反還元主義 河見 誠/世界および日本における死刑制度の現況 辻本衣佐/法哲学プロパーと死刑の問題 ホセ・ヨナルト/制度としての法と法律学 狩野道徳/ほか	21	A5判並製284頁/4000円	(0338-9・01)
ホセヨナルト・三島淑臣・長谷川晃編	もうひとつの正義構想に向かって(住吉雅美) ハイエクにおける立憲主義についての一考察(土井崇弘) 世俗化過程としての国家の成立(ペッケンフェルデ/桜井健吾訳) 法解釈における事物の本質論,あるいはアプダクション(駒城鎮一) 事実と真実(平田元・宗岡嗣郎) 法服従(N・ブリースコルン/三島淑臣監訳・塩見佳也訳) ほか	22	A5判並製312頁/4000円	(0360-5・03)
ホセヨナルト・三島淑臣・長谷川晃編	実践的法妥当論(一)(森際康友)/仮想的保険と倫理的リベラリズム—R・ドゥウォーキンの平等論の一断面—(長谷川晃)/価値多元論と恐怖のリベラリズム—バーリンとシュクラールの比較を通して—(濱真一郎)/グローバルな正義論—人権論からのアプローチ—(竹村和也) ほか	23	A5判並製220頁/3800円	(0376-1・04)
ホセヨナルト・三島淑臣・長谷川晃編	エゴイスト <脱自> のとき 住吉雅美/権利保護の意義と限界 浅野有紀/「恒久の平和」(日本国憲法前文)の形而上学的解明 中村博雄/グローバルな正義 宇佐美誠/医療における患者の個人情報保護システムの法理論的検討 増成直美ほか	24	A5判並製214頁/3800円	(0395-8・05)
ホセヨナルト・三島淑臣・竹下賢・長谷川晃編	特集: I 人体構成体の取扱いと「人間の尊厳」 甲斐克則 II 「人間の尊厳と人間の生命」試論 西野基継 III 「遺伝情報」及び「承諾」と「人間の尊厳」 只木 誠 IV 「死の迎え方」と自己決定権 山崎康仕 V ハビトスとしての人間の尊厳—人間の尊厳とケア倫理— 葛生栄二郎ほか	26	A5判並製226頁/3800円	(0431-7・07)

- ホセヨンバルト・三島淑臣・竹下賢・長谷川晃編
法の理論 27
 特集《日本国憲法をめぐる基本問題》
 A 5 判並製254頁／3800円 (0449-2・09)
 I 民主主義と立憲主義 青山治城／II 民主主義の「質」と憲法学 高作正博／III 尊厳と二四条の可能性 岡野八代／IV 予防原則と憲法の政治学 中山竜一〔論文〕一 グローバルな正義・再論 宇佐美誠
-
- ホセヨンバルト・三島淑臣・竹下賢・長谷川晃編
法の理論 28
 特集《今、刑罰を考える》
 A 5 判並製262頁／3800円 (0474-4・09)
 I 刑罰から国家を考える(宗岡嗣郎) II 国家刑罰権の正当化(瀧川裕英) III 国営刑罰の論理と心理(宮本弘典) IV 刑罰に関する小講義(小林憲太郎) V スペインの刑罰制度の抜本的な改革について・ノート(ホセ・ヨンバルト)
-
- ホセヨンバルト・三島淑臣・竹下賢・長谷川晃編
法の理論 29
 特集《私的自治：私・個人とは何か》
 A 5 判並製224頁／3800円 (0500-0・10)
 I 私的自治の歴史(石川真人) II 私的自治とは何か、また何のためか(森村進) III 関係的契約理論による損害賠償論の試み(山本顕治) IV 対話的私的自治の可能性へ向けて(和田仁孝) ほか
-
- ホセヨンバルト・三島淑臣・竹下賢・長谷川晃編
法の理論 30
 記念特集《21世紀の法・社会・国家》
 A 5 判並製310頁／3800円 (0522-2・11)
 I 自由主義は反自由主義を包摂できるか(鳴津格) II 環境国家の理念からみたローカル・コモンズ(竹下賢) III ヴェーバーの非「正義論」的社会政策思想(今井弘道) IV 二一世紀の法の概念(長谷川晃) V 法化としての世界化(酒匂一郎)
-
- 竹下賢・長谷川晃・酒匂一郎・河見誠編
法の理論 31
 特集《公共性と法》
 A 5 判並製270頁／3800円 (0538-3・12)
 I 主権と領域主権(稲垣久和) II 法、公共性、社会的同質性(大野達司) III 法と公共性(橋本 努)
-
- 竹下賢・長谷川晃・酒匂一郎・河見誠編
法の理論 32
 特集《ケアと法》
 A 5 判並製282頁／3800円 (0557-4・13)
 I ノモスとピュシスの再考(品川哲彦) II ケアの意味の核にあるもの(高橋隆雄) III ケア倫理と自然法(葛生栄二郎) IV ケアの倫理と関係性(野崎亜紀子), 論文 ファインバーグのデザート論(亀本洋) ほか。
-
- 竹下賢・長谷川晃・酒匂一郎・河見誠編
法の理論 33
 特集《日本国憲法のゆくえ》
 A 5 判並製272頁／3800円 (0571-0・15)
 I 九条問題再説(井上達夫) II 憲法改正限界論の限界をめぐる(大屋雄裕) III 「公共の福祉」の再検討(鳥澤 円), 論文 特別なものとしての不作爲犯?(山下裕樹) ほか。
-
- 竹下賢・長谷川晃・酒匂一郎・河見誠編
法の理論 34
 特集《創る法と成る法》
 A 5 判並製302頁／3800円 (0583-3・15)
 I 立法をめぐる近代イギリスの法思想(戒能通弘) II J・S・ミルと創る法/成る法(村林聖子) III 一九世紀プロイセン裁判所における法形成(鈴木康文) IV 立法の思想史(石部雅亮) ほか。

竹下賢・長谷川晃・酒匂一郎・河見誠編

法の理論 35

特集《例外状況と法》

A5判並製272頁／3800円

川口浩一「例外状態に関する思考実験としての『トローリー問題』」／松生光正「国家と緊急救助」／安達光治「例外状態と緊急事態条項」／西村清貴「例外状況と秩序」,〔論文〕北村幸也「ドイツにおける『裁判官による法の継続(?)形成』」についての覚書き／椎名智彦「法道具主義再考」ほか。
〔0605-2・17〕

長谷川晃・酒匂一郎・河見誠編

法の理論 36

特集《ネオ・プラグマティズムと法》

A5判並製312頁／3800円

岡本裕一朗「自然主義と規範主義のはざま」／大河内泰樹「規範と解釈」／高橋洋城「規範のパラドクスから規範のプラグマティクスへ」／毛利康俊「法的思考において結果を考量することのよましさについて」,〔論文〕菅原寧格「中国における〈市民社会〉と〈法〉の行方」／河見誠「自立・自律・存立」など。
〔0629-8・18〕

長谷川晃・酒匂一郎・河見誠編

法の理論 37

特集《リスク社会における自由と協働の秩序》

A5判並製324頁／3800円

嶋津格「リスクと『安全・安心』」／橋本努「リスク認識とイデオロギー」／川瀬貴之「リスクとリスク対処の類型」／野崎亜紀子「自由を規制する理由・再考」〔論文〕荒井真「ルドルフ・フォン・グナイストの『自由弁護士論』」など。
〔0647-2・19〕

長谷川晃・酒匂一郎・河見誠・中山竜一編

法の理論 38

特集《生命医学の発展と倫理的法的社会的問題》

A5判並製242頁／3800円

瀬戸山晃一「遺伝子差別と平等」／林芳紀「ドーピングとエンハンスメント」／伊吹友秀「優れた子ども／よい子どもを選ぶことと創ることの倫理」／鈴木慎太郎「生殖医療技術と身体のリソース化・商品化」〔論文〕森悠一郎「ソフィア・モローの熟慮的自由説の批判的検討」／山本健人「公的判断過程における宗教」
〔0669-4・20〕

長谷川晃・酒匂一郎・河見誠・中山竜一編

法の理論 39

特集《「動物の権利」論の展開》

A5判並製276頁／3800円

浅野孝治「動物権利論と捕食の問題」／鬼頭葉子「動物権利論の拡張可能性について」／久保田さゆり「動物倫理の議論と道徳的地位の概念」〔論文〕松島裕一「法律の精神について」／吉良貴之「行政国家と行政立憲主義の法原理」ほか。
〔0685-4・21〕

長谷川晃・酒匂一郎・河見誠・中山竜一編

法の理論 40

特集《カントにおける法秩序と他者》

A5判並製270頁／3800円

木原淳「所有秩序と他者」／網谷莊介「国際法の他者」／龍川裕英「カントと『正しい植民地』」〔論文〕西村清貴「グスタフ・ラートブルフにおける法的安定性について」／森悠一郎「ナンシー・フレイザーの『普遍的ケア提供者モデル』擁護論はどこまで成功しているか?」ほか。
〔0697-7・22〕

長谷川晃・酒匂一郎・河見誠・中山竜一編

法の理論 41

特集《法実証主義の比較思想史》

A5判並製308頁／4200円

内野広大「国制における実定法と実定道徳」／椎名智彦「ホームズとフラー」／西村清貴「ラートブルフ・テーゼとドイツにおける法実証主義」／荻野奈緒「ドムロンブにおける『法』とその適用」／近藤圭介「反規範主義的、反意志主義的、反国家主義的な法実証主義」ほか。
〔0718-9・23〕

法 制 史

島善高著

律令制から立憲制へ

A 5 判上製380頁／3500円

形骸化しながらも律令制は明治初年まで続いていたとの認識から、「律令制から立憲制へ」という問題関心の下にまとめたもの。第一章 幕末に甦る律令，第二章 副島種臣と明治初期法制，第三章 江藤新平の国法論，第四章 井上毅のシラス論註解，第五章 天佑とGottesgnadentum，ほか [0463-8・09]

栗原真人著

香川大学法学会叢書8

一八世紀イギリスの刑事裁判

A 5 判上製418頁／7000円

一八世紀イギリスのオールド・ベイリにおいて、国家法によることなく刑事司法の担い手達（裁判官，弁護士，陪審）が生み出した変化，すなわち，当事者対抗主義的な公判構造への転換過程と，証拠法の形成過程を検証する。

[0526-0・12]

姫嶋瑞穂著

明治監獄法成立史の研究

欧州監獄制度の導入と条約改正をめぐる

A 5 判上製324頁／6500円

明治5年「監獄則」から明治41年「監獄法」に至る近代日本監獄法の展開を条約改正交渉と関連付け，新たな視点からアプローチする。「行刑の国際化」と「日本型行刑」の調和に向けた監獄法の立案・修正について検討し，日本近代法体系において監獄法がどう位置づけられるのか新たな見通しを提示する。 [1918-2・11]

高塩博著

國學院大學法学会叢書2

近世刑罰制度論考

社会復帰をめざす自由刑

A 5 判上製352頁／5500円

江戸時代の自由刑を考察した研究書。社会復帰をめざす自由刑は，十八世紀中葉，熊本藩に誕生し，ついで佐賀藩・会津藩がこれを採用し，幕府も無宿を対象とする人足寄場を開設した。すると，少なからぬ藩がこの自由刑を実施し，やがて明治初年の懲役刑にその趣旨が継承された。

[0539-0・13]

高塩博著

近世諸藩の法と刑罰

A 5 判上製480頁／9000円

本書は，尾張国名古屋藩，肥後国熊本藩，陸奥国の会津藩・白河藩・二本松藩および下野国黒羽藩の六藩について，その法と刑罰を考察した論考である。新出史料を紹介することによって藩法的一端を明らかにしようとする。

[0694-6・21]

岡田昭夫著

明治期における法令伝達の研究

A 5 判上製390頁／8000円

公文式発令以前に発令された諸法令を調査・収集して目録索引を編纂するという国立国会図書館における「日本法令索引（明治前期編）」の編纂作業を契機として，明治期の法令伝達に関するさまざまな疑問点を調査・研究し一書とした意欲作。

[0542-0・13]

松田恵美子著

伝統中国と近代法、人

A 5 判上製330頁／7000円

近代法が前提とする理性的な人とは異なる「現実の人」を基底とした時，法は如何にして秩序をもたらしているのか。伝統中国の徳，礼，法によって考える。

[0654-0・19]